

茅ヶ崎セントラルクリニック 服部 佐季（臨床工学技士/臨床工学科）

- 功 績** 教育プログラムを柔軟に見直し、適切なトレーニングにより2ヵ月で穿刺が出来るよう教育した功績
- 推 薦 者** 小田島 英明（技士長/臨床工学科）
- 推 薦 理 由** 今回の研修は私共臨床工学科の理念実現時の自部署の姿である「臨床工学のスペシャリストの下に研修生が集まり、毎年全国に優秀な技士を輩出している」を体现しているだけでなく、グループ全体で、受け入れ可能な患者さんの幅が広がり、医療の質の向上にもつながると考え理事長賞に推薦いたします。

内 容

手術適応の透析患者の受け入れを想定し、穿刺が出来るまでの技術習得と患者対応能力の向上を目的として昨年11月より3ヵ月間、石川島記念病院より技士1名の実習を受け入れております。

女性という事もあり、服部さんを教育担当として配置しました。週2回という事から研修時間の短さと、他機関の職員が患者さんから信用を得て、穿刺をさせていただけるのかという問題があり、少々不安の残る研修スタートとなりました。

岩田さんの話易い雰囲気に着目し、通常の研修とは順序を変更し、最初から血圧測定等で患者さんとコミュニケーションを取る事に重点を置きました。すぐに患者さんと打ち解け、信用されたと判断すると同時に医療職に相談の上、服部さんから各部門のスタッフに頼み込み、スタッフの腕を使って穿刺トレーニングを行い、岩田さんの穿刺を開始しました。

柔軟で適切なトレーニングにより技術は向上していきました。

夜間ケールの患者さんの方が穿刺し易い事から、研修の時間を前後1時間ずらし、少しでも穿刺が出来る環境を整備しました。

穿刺技術の向上とともに自分の担当患者も増えていき、今では穿刺を7～8名担当し、研修期間中でもあるにもかかわらず、当クリニックにとって戦力になっているのは言うまでもありません。

穿刺時のトラブル対応は逐次経験する事で徐々に適切に出来るようになってきています。